

Authoring & Editing environment for Web2Print.

Edition BackStage ▲

Edition Flex ▲

ユーザ設定手順

第1.0版

RESOLOGIC

はじめに

「Edition Flex」(以下 Flex といいます) で利用するテンプレートやカセット、素材は、「Edition BackStage」(以下 BackStage といいます) 環境で設定、登録します。また、その際の編集画面には Flex が利用され、互いに連携することで運用されます。

しかし、両者は構造上 独立した Web アプリケーションなので、両アプリケーションを利用する上では、相互の連携に必要な設定をそれぞれの環境に定義しなければなりません。

そのため BackStage と Flex の連携に必要な設定には下記のようなものがあります。

1. 連携する Flex アプリケーションの設定

BackStage 側に 連携の対象となる Flex アプリケーションの URL を設定します。

2. Flex、BackStage 共通で認証するためのアカウント情報の設定

Flex と BackStage それぞれに、連携用のログインユーザーアカウントを登録し、認証のための設定を行ないます。

3. Flex がデータを参照するプロバイダの設定

Flex が編集時に利用する、カセット、素材を取得する為のプロバイダ(提供者)を登録します。

ここに BackStage の URL を登録することで、BackStage に登録した素材やカセットを編集に利用できます。

1. 連携するシステムの設定について

BackStage が どのFlexアプリケーションと、どのユーザーで、また どこにあるデータを使って連携するかといった設定を行ないます。

1) 連携する Flex アプリケーションの設定

BackStage が連携するFlexは どれであるかを特定するため、BackStageのシステム設定で、対象となるFlexアプリケーションのURLを設定します。

2) Flex、BackStage 共通で認証するためのアカウント情報の設定

BackStage と Flex が連携して運用されるために、それぞれに同じアカウントを追加して そのアカウントで認証される様に設定する必要があります。

BackStage のアカウント情報

Flex のアカウント情報

※BackStage も Flex も 個々にログイン画面を持ったWebアプリケーションです。

従って、通常であれば それぞれ呼び出す度に、各アプリケーションのログイン画面が表示され、ユーザIDとパスワードを入力する必要があります。

それでは使い勝手が悪いので、ログイン画面を介さずに システムが 暗黙のうちに認証して連携する様にしており、上記はそのための設定となります。

3) 各種データプロバイダ(提供者)の設定

BackStage と Flex の連携ワークフローは、前述のアカウント設定に従って、BackStage のユーザIDで Flex の編集画面を表示して編集させるように要求します。

その際、BackStage は、「〇〇というテンプレートを編集させて欲しい」とだけ要求します。

要求された「〇〇というテンプレート」の実体のソースデータは、通常「プロバイダ」なる共通の場所に置かれ、そこから取得しますので、ソースデータ自体を受け渡す必要がありません。

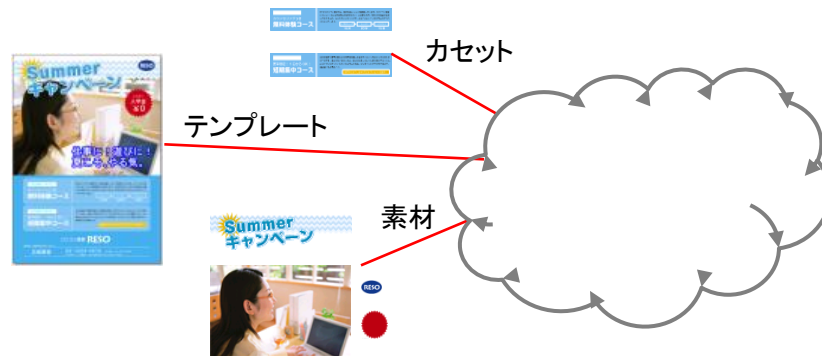
(※ただし編集時にユーザが単独でアップロードした専用の素材については実体を埋め込んで渡す必要があります)

プロバイダには、

- ・テンプレートを編集する際の「テンプレートプロバイダ」
- ・カセットを管理する「カセットプロバイダ」
- ・素材を管理する「素材プロバイダ」

の3種類があります。

それぞれのプロバイダの情報を Flex に登録して運用します。



BackStage 上で登録したカセット や 素材については、BackStage が「プロバイダ」となりますが、「プロバイダ」は必ずしも、BackStage である必要はなく、プロバイダAPIと呼ばれる、Flex からの呼び出し要求に答えられるインターフェース(URL)が実装されていれば、それは何でも構いません。

Edition Flex - プロバイダー一覧 - Windows Internet Explorer

http://flex.reso.co.jp/flex/profileProvider/list

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(I) ヘルプ(H)

☆ Edition Flex - プロバイダー一覧

design04 ログアウト

ホーム > 設定 > プロバイダ

デフォルトプロバイダ

	プロバイダ名称	プロバイダURLプレフィックス	編集
テンプレートプロバイダ		http://210.168.18.115/backstage/cooperation	編集
カセットプロバイダ		http://210.168.18.115/backstage/cooperation	編集
素材プロバイダ		http://210.168.18.115/backstage/cooperation	編集

素材プロバイダー一覧

素材プロバイダの追加

検索条件

ページ: 1

プロバイダ識別子 ▲	プロバイダ名称	作成日時	編集	削除
有効フラグ	プロバイダURLプレフィックス	更新日時		
b01	b01	2010年10月21日 10時22分11秒	編集	削除
有効	http://210.168.18.115/backstage/cooperation	2010年10月21日 10時22分11秒		

ページ: 1

Copyright(c) 2010 RESOLOGIC Inc. All rights reserved.

javascript:void(0) インターネット | 保護モード: 有効 100%

Flex のプロバイダー一覧

4) プロバイダによるソースデータの流れ

Flexは編集開始時に、まず、テンプレートプロバイダから、テンプレートをダウンロードし、編集画面を呼び出します。

編集画面を表示する際に、イメージパーツがあり、その素材が必要になった時に、今度は、素材プロバイダから素材をダウンロードして表示します。
(このときは低解像度画像のみを取得します)

その後印刷用PDFの生成といった、高解像度の素材が必要になった場合に、Flexが低解像度画像しかダウンロードしていなかった場合には、改めて、高解像度画像をプロバイダからダウンロードします。

BackStage は、テンプレート・カセット・素材 の各プロバイダの機能を持っています。

BackStage <--> Flex 連携においては、BackStage がプロバイダとなり、Flex がそれを利用します。

このプロバイダ機能は、BackStage 全体で一つではなく、BackStageのユーザごとに個々に 指定可能です。
※ユーザIDを指定しない(指定を省略した)場合 BackStageからFlexにログインした際のユーザIDが使われる事になります。

つまり、プロバイダの設定作業では、Flex の各ユーザに対して、そのユーザでは、どのBackStageのどのユーザをプロバイダにするかということを設定する作業となります。

最もシンプルな構成では、

- 1)BackStage と Flex に同じユーザIDを登録します。
- 2)そのIDで Flex にログインし、プロバイダ設定で、そのBackStage のプロバイダAPIのURLを指定することになります。

これで、BackStage の特定ユーザ と Flex の特定ユーザが

- ・BackStage ⇒ Flex
- ・Flex ⇒ BackStage
- ・Flex ⇒ プロバイダ(BackStageのそのユーザ)

の3つの連携において、1対1で関連づくことになります。

2. BackStageの設定

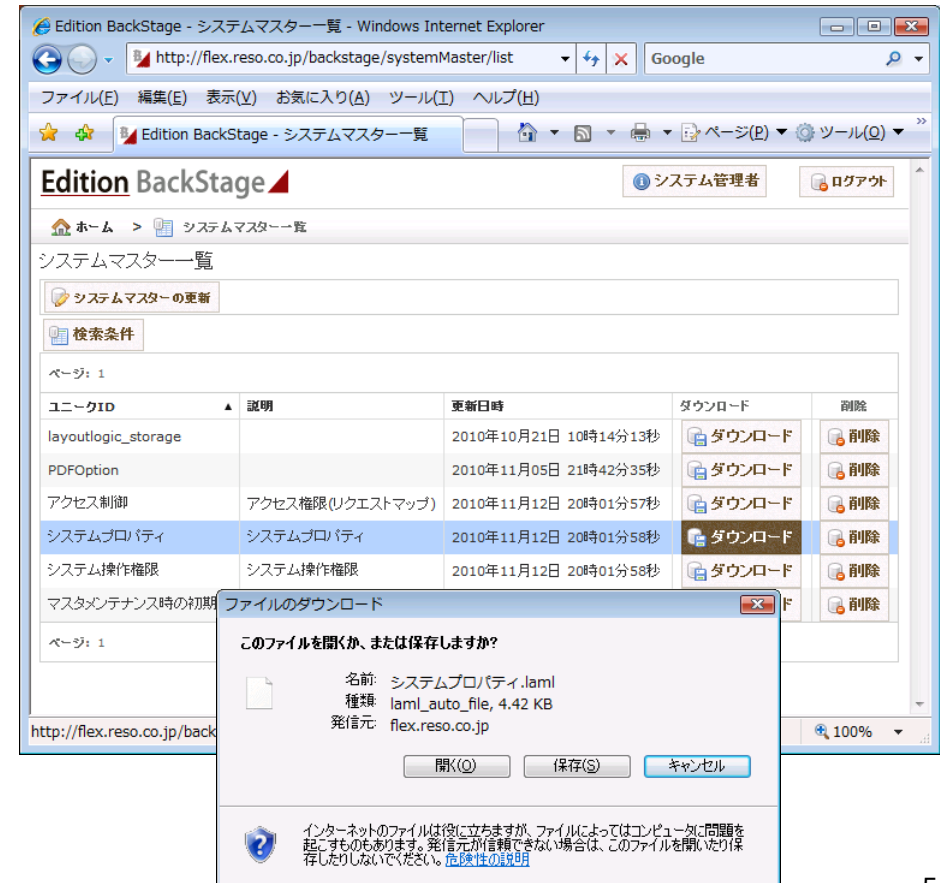
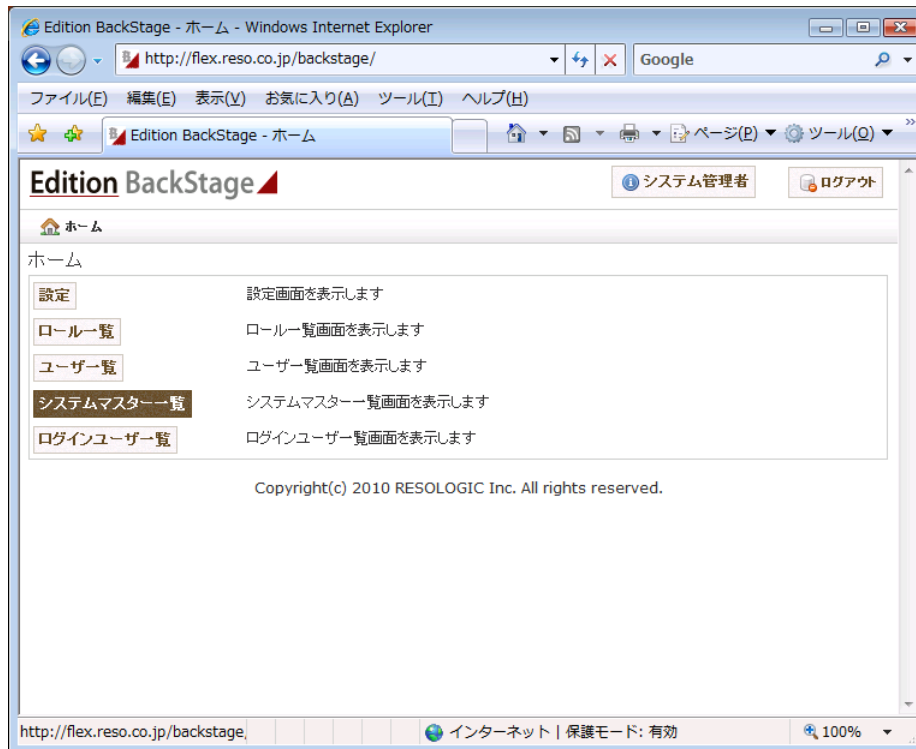
BackStage側の実際の設定手順について説明します。

1) BackStage に、連携する Flex アプリケーションを設定する

BackStage に対して、連携する Flex アプリケーションのURLを システム管理者で設定します。

- ①システム管理者のアカウントで BackStageにログインします。
- ② [システムマスター一覧]を実行します。

- ③「システムプロパティ」のマスターファイルを[ダウンロード]します。
※システムプロパティ.laml にて任意のフォルダに保存します。



- ④ダウンロードしたファイルをテキストエディタで開きます。
下記の様な内容が記載されています。(表記例)

```

システムプロパティ   システムプロパティ
素材サムネイルサイズ 120
テンプレートサムネイルサイズ 120
config
リリース
grails
  serverURL http:// flex.reso.co.jp /backstage
  mail
    host xxx.reso.co.jp
  logicConfig
    dataPath c:/edition/backstage
editionBackstage
temporary
  expire 86400000
loginstate
  expire 3600000
removeLogicStorageData
  expire 86400000
flexURL http:// flex.reso.co.jp /flex
alive /document/alive
relay /document/relay
layout /document/layout
download /document/download
pdf /document/pdf
jpeg /document/jpeg
remove /document/remove
logout /logout/force
resourceLocatorPrefix
backstage http://backstage.edition.reso.co.jp
flex http://flex.edition.reso.co.jp
pribiz http://pribiz.edition.reso.co.jp
メール
リリース
enabled false
BCC false
FromUser true
From backstage.from@example.com
ErrorsTo backstage.errorsto@example.com
DebugTo backstage.debugto@example.com

```

- ⑤「flexURL」タグに Flex アプリケーションのURLを指定します。

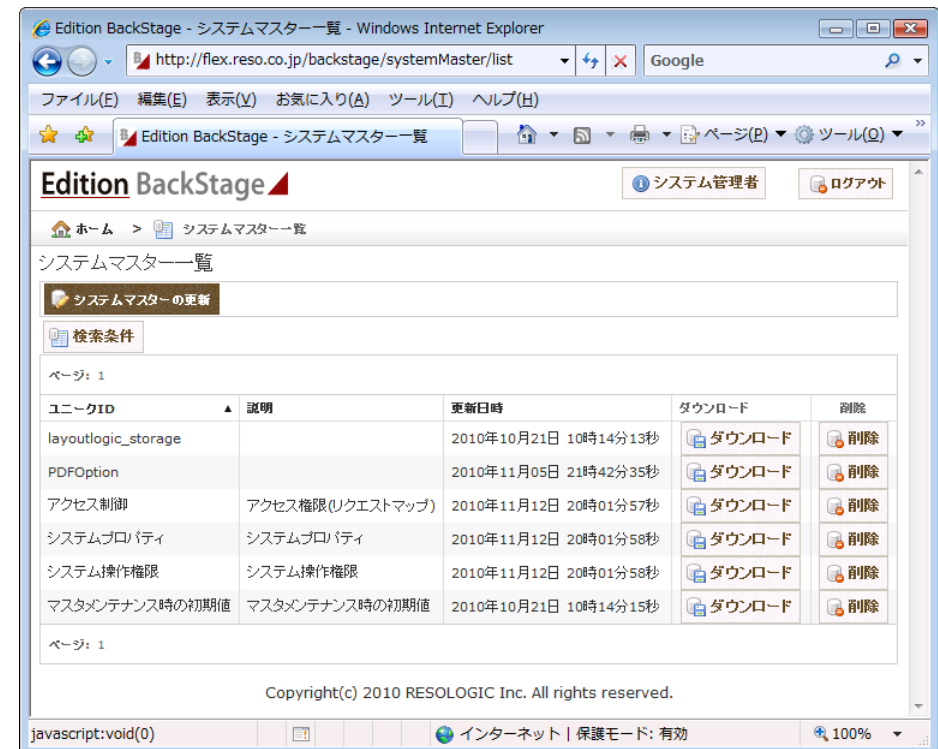
```

...
flexURL http://flex.reso.co.jp/flex (記入例)
...

```

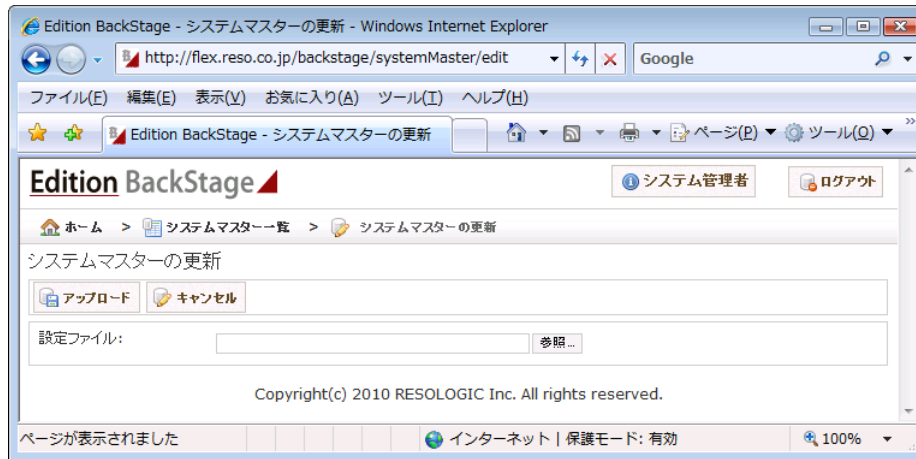
※編集完了した lami ファイルを保存します。

- ⑥[システムマスターの更新]を選択します。

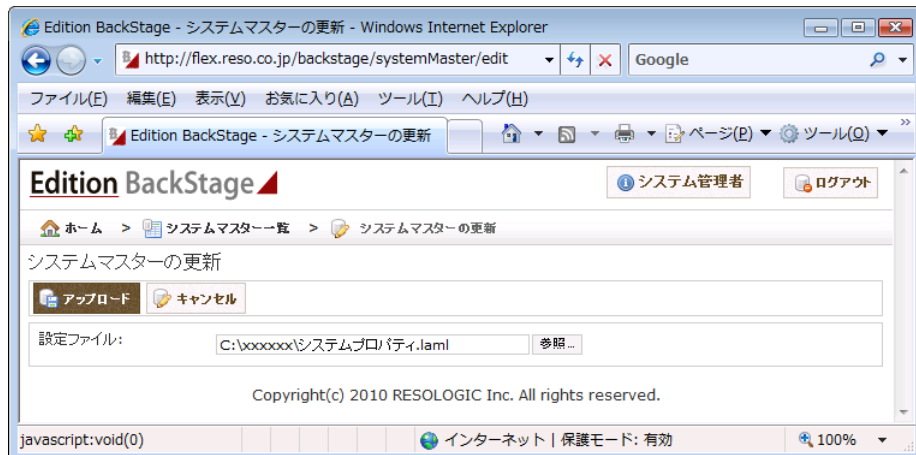


※CRコードの無い UTF-8(BOM無し)が編集できるエディタをご利用下さい。

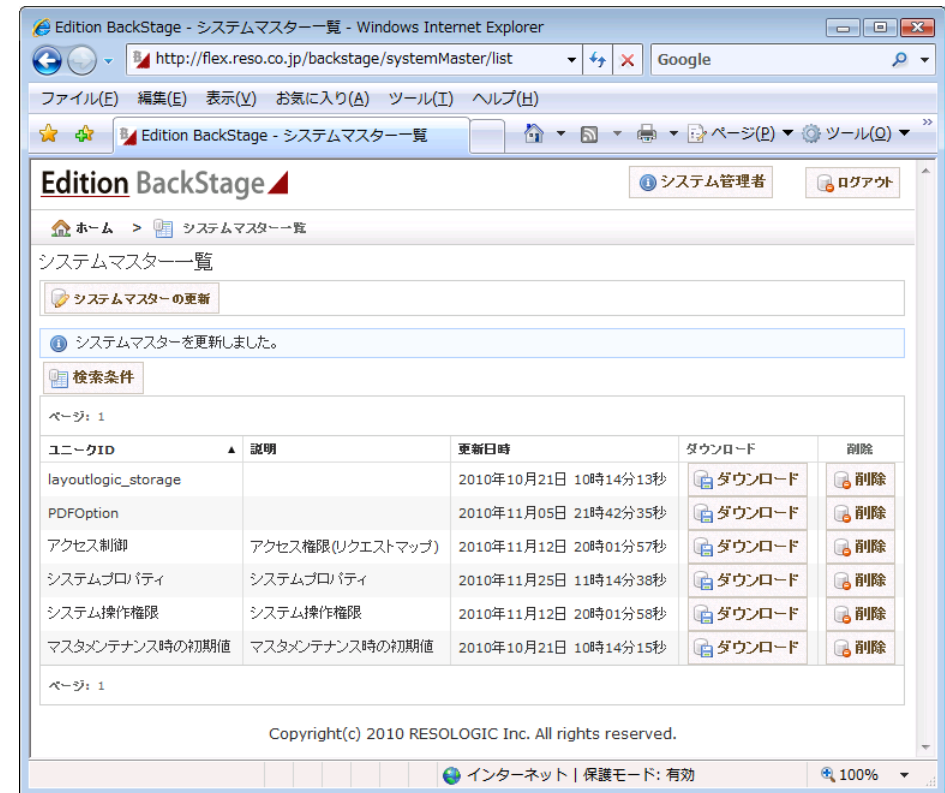
⑦「システムマスターの更新」画面が表示されます。



⑧編集した「システムプロパティ.laml」を指定して[アップロード]を実行します。



⑨アップロードが完了すると「システムマスター一覧」画面に「システムマスターを更新しました。」と表示されて マスタの更新が完了します。



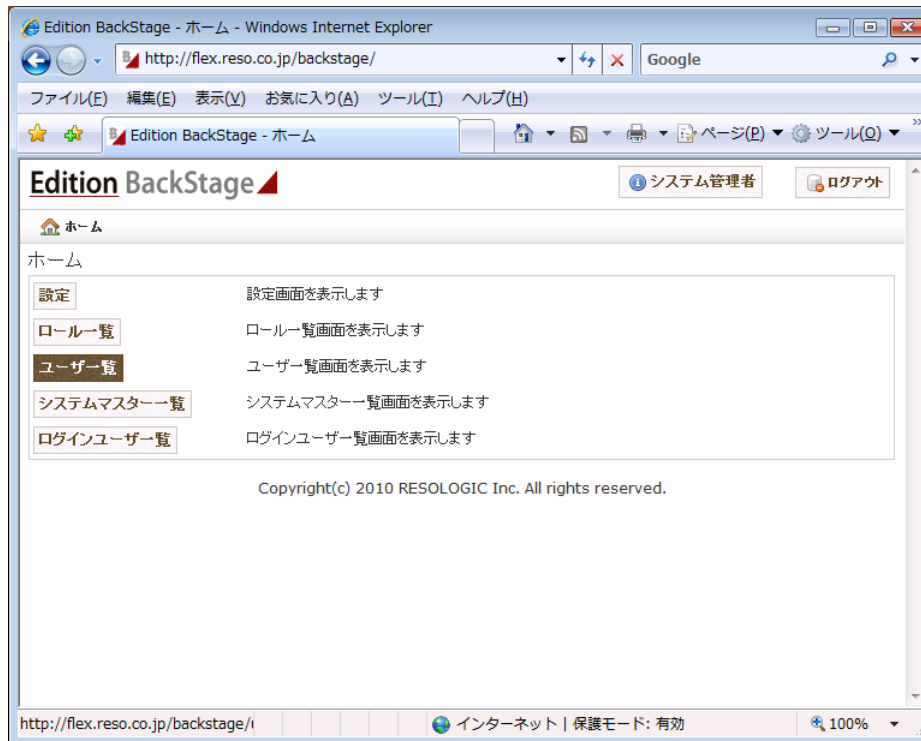
※更新したマスタの更新日時が更新されます。

2) BackStage に、連携用のユーザーアカウント情報(ユーザID と パスワード、秘密鍵、利用期間)を登録する

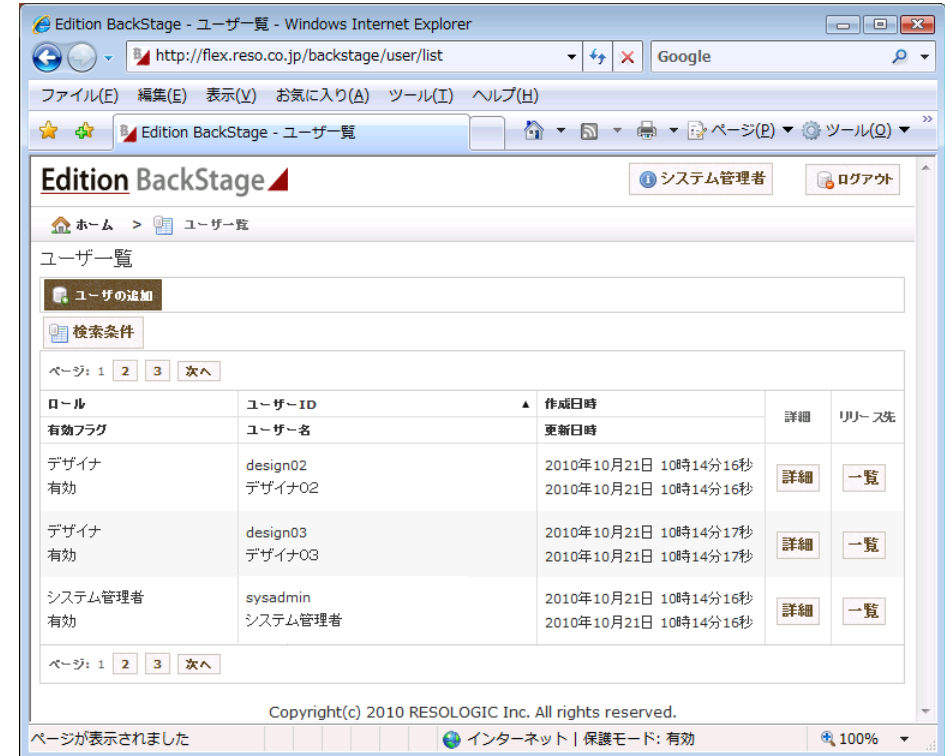
BackStage のアカウントの追加・設定は、システム管理者で行ないます。

①システム管理者のアカウントで BackStageにログインします。

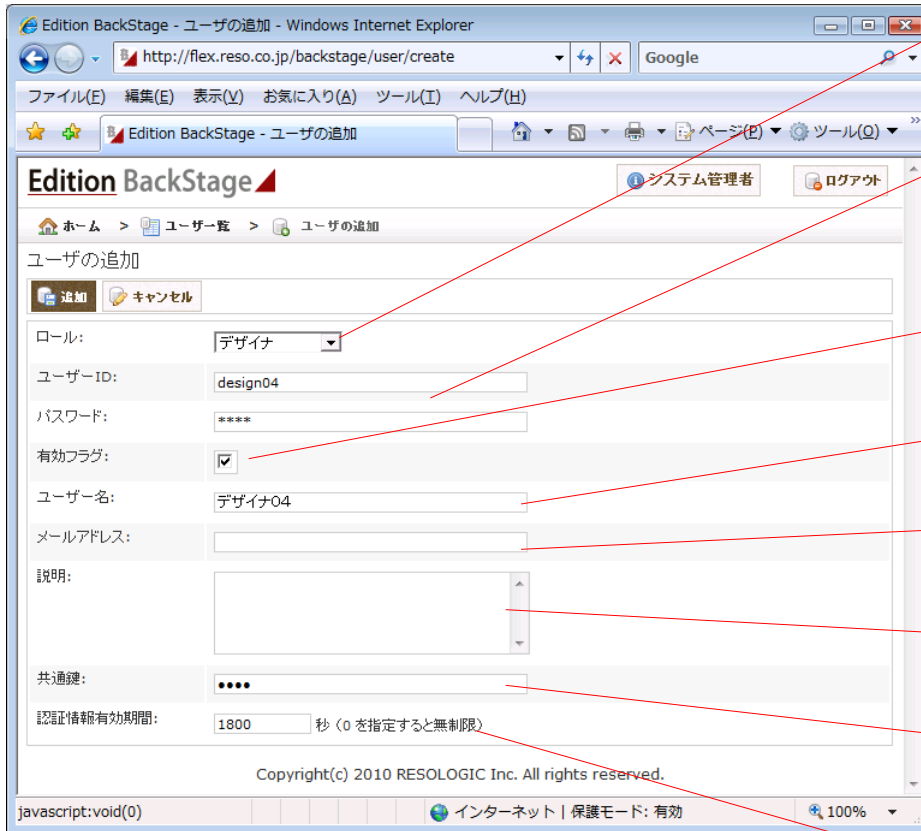
② [ユーザー一覧]を実行します。



③「ユーザー一覧」画面の[ユーザの追加]を実行します。



- ④必要な項目を入力し、[追加]ボタンを押してユーザを追加します。
その際、連携時にアクセスする Flex側のデザイナー権限 (= ロール) の
ユーザーと同じ[ユーザーID]、[パスワード]、[共通鍵] を入力します。



Copyright(c) 2010 RESOLOGIC Inc. All rights reserved.

ロール:

ユーザ権限を指定します。
管理者、デザイナー、ユーザ 等で 利用できる機能が制限されています。

ユーザーID/パスワード:

ログインする際のユーザーIDとパスワードです。
ここでは 連携時に Flex にログインする時と同じユーザーIDとパスワードを指定します。

有効フラグ:

このユーザーを無効とする場合チェックをはずします。

ユーザー名:

ログイン中 BackStage 画面の右上にこのユーザー名を表示します。

メールアドレス:

(現在 BackStage では使用していません)

説明:

ユーザー一覧の説明欄に表示する説明文言です。

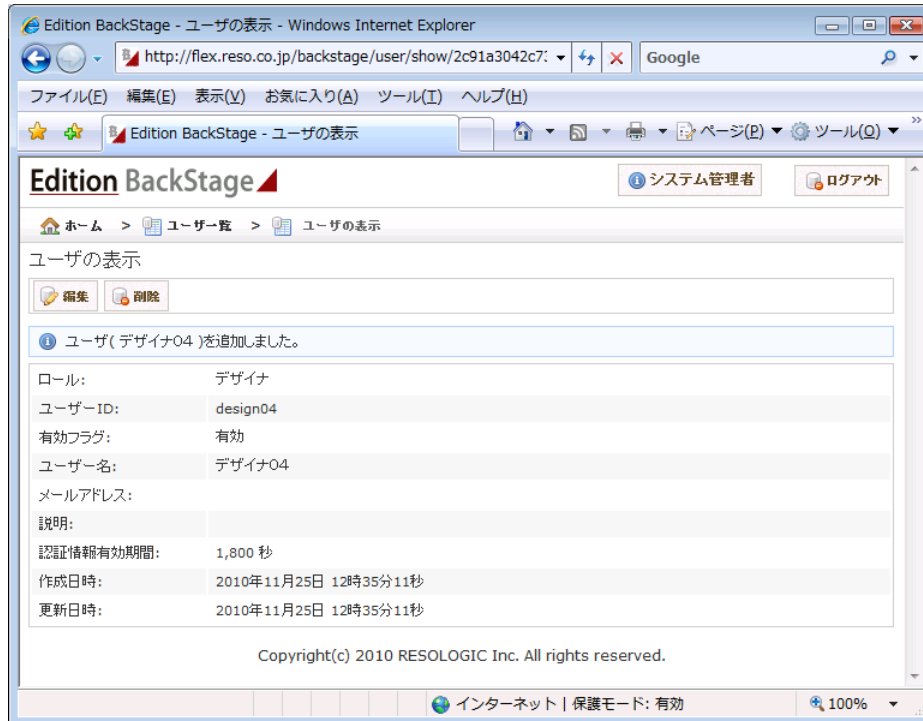
共通鍵:

Flex 連携時に 認証で使用する暗号キーです。Flex側の設定と同じ文字列を指定します。

認証情報有効期間:

BackStageに対する共通鍵による認証処理が完了するまでの必要時間です。デフォルトは1800秒(30分)ですが、短くするほど安全です。

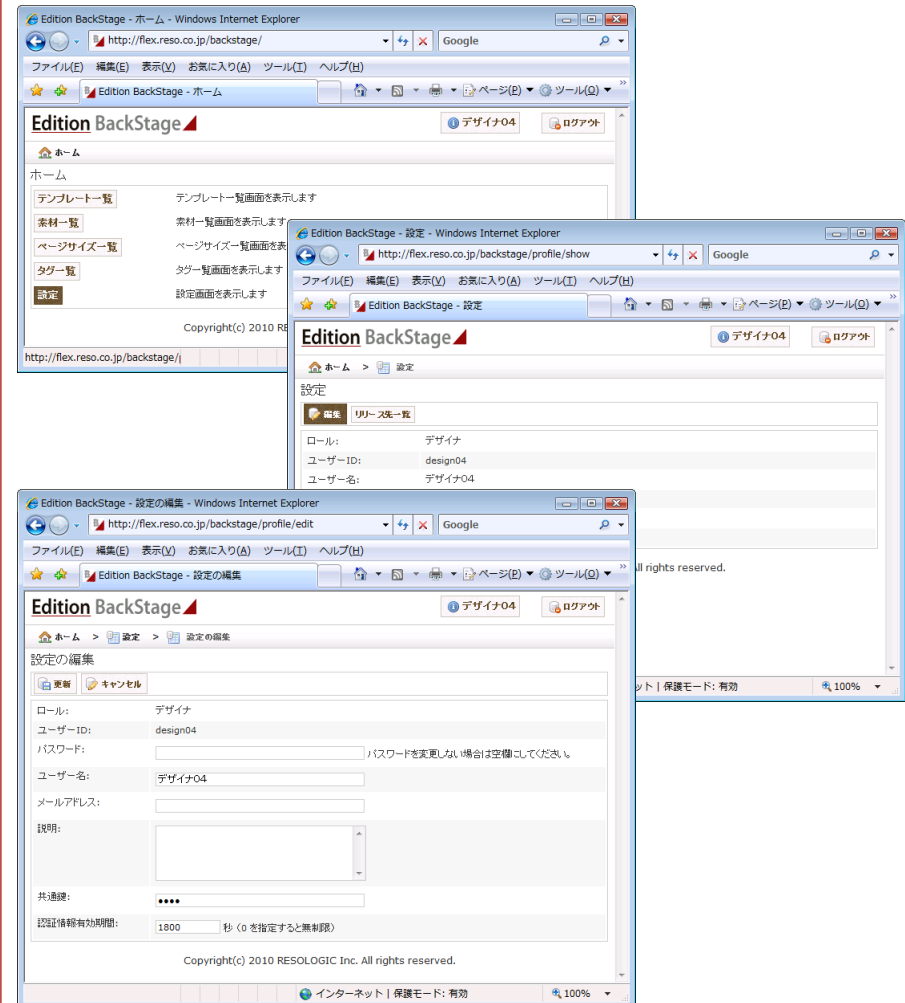
⑤入力した情報に従って、新しいユーザが追加されます。



⑥「ホーム」をクリックして、ホーム画面に戻ります。

(参考):

既に登録済みのユーザーでログインして アカウント情報を変更する場合は、ホーム→[設定]→[編集]で変更します。



3. Flexの設定

Flex側の実際の設定手順について説明します。

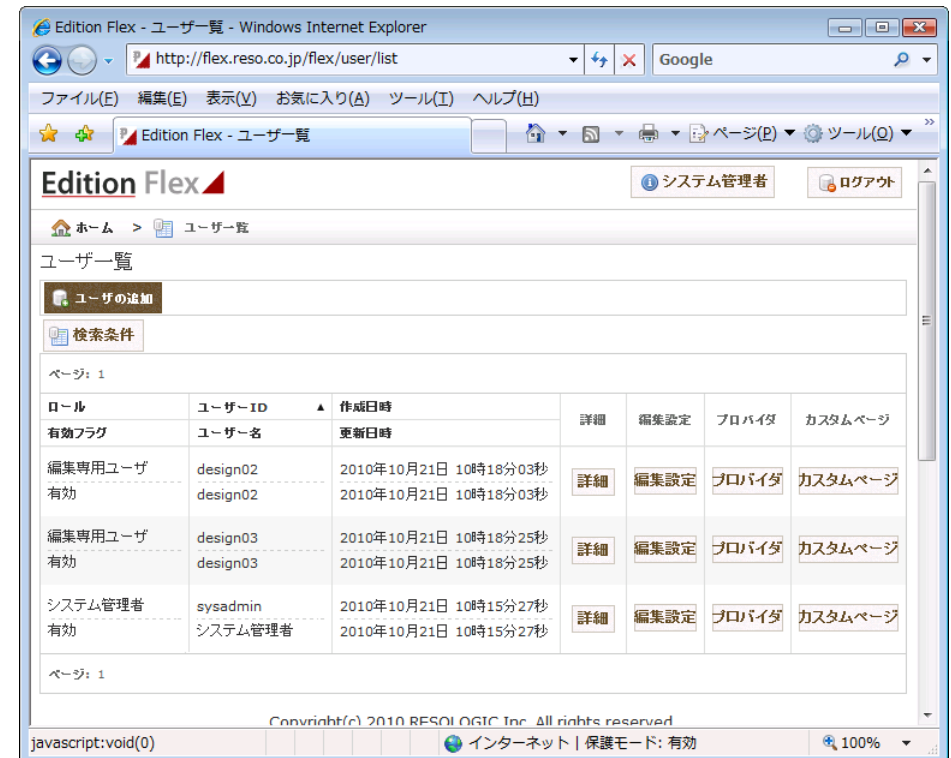
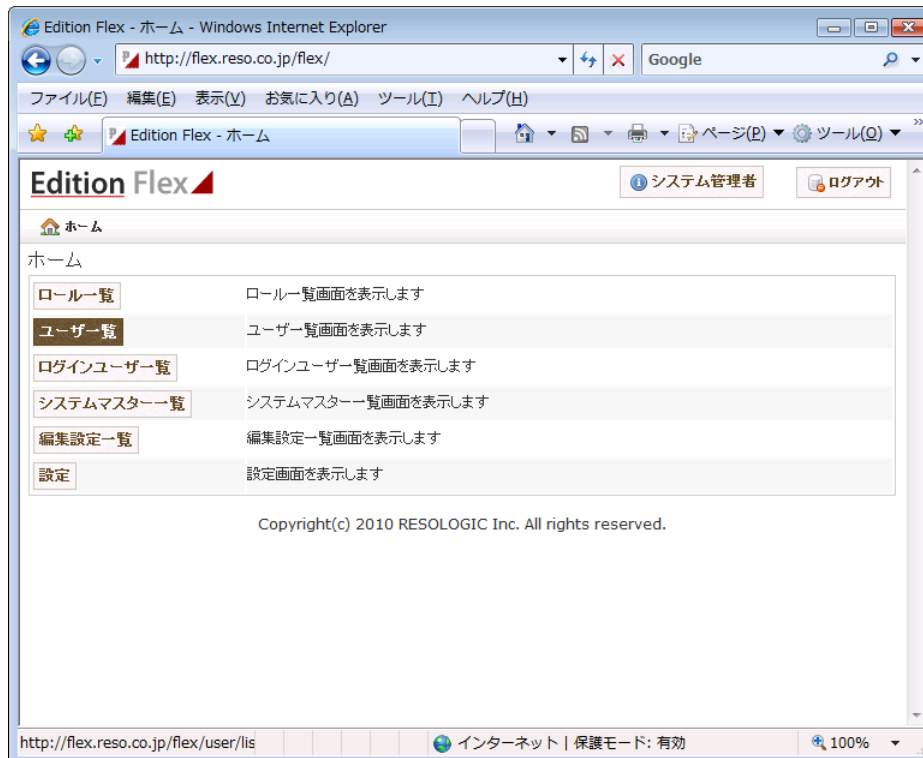
1) Flex に、BackStage と同じユーザーアカウント情報を登録する

BackStage に追加したユーザーアカウントがFlexに登録されていない場合は、Flex側にも 同じユーザーアカウントを追加・設定します。

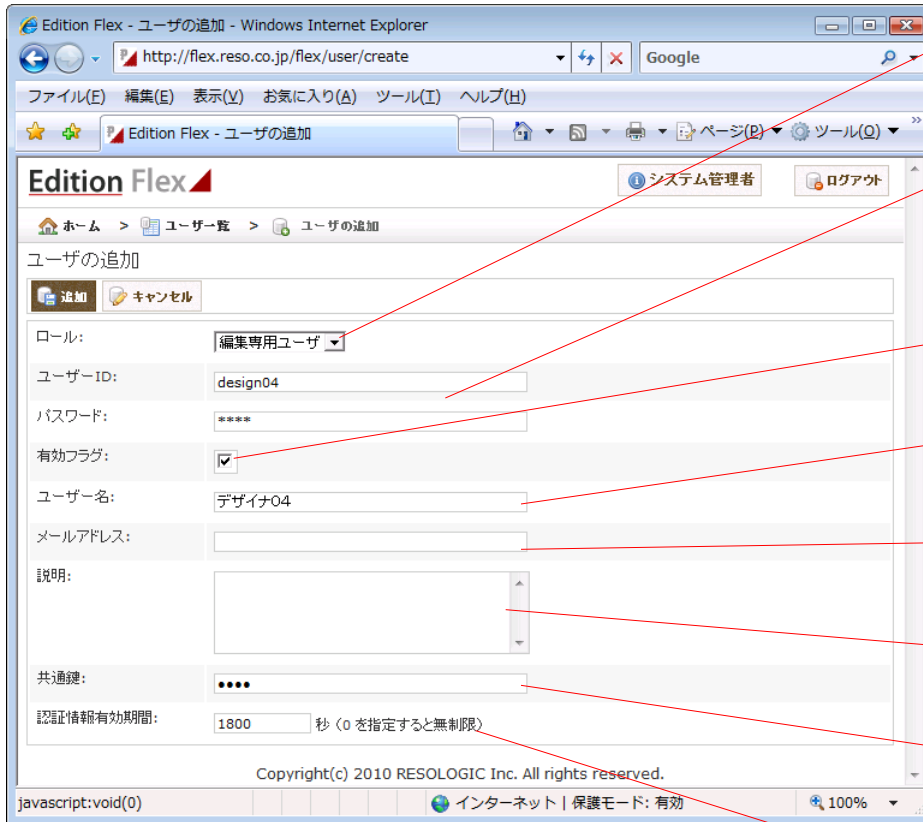
①システム管理者のアカウントで Flex にログインします。

② [ユーザー一覧]を実行します。

③「ユーザー一覧」画面の[ユーザの追加]を実行します。



- ④必要な項目を入力し、[追加]ボタンを押してユーザを追加します。
その際、連携時にアクセスする Flex側のデザイナー権限 (= ロール) の
ユーザーと同じ[ユーザーID]、[パスワード]、[共通鍵] を入力します。



Role:

User ID:

Password:

有効フラグ: ☒

ユーザー名:

メールアドレス:

説明:

共通鍵:

認証情報有効期間: 秒 (0 を指定すると無制限)

Copyright(c) 2010 RESOLOGIC Inc. All rights reserved.

ロール:

ユーザ権限を指定します。
システム管理者、編集用 等で利用できる機能が制限されています。

ユーザーID/パスワード:

ログインする際のユーザーIDとパスワードです。
ここでは 連携時に BackStage にログインする時と同じユーザーIDと
パスワードを指定します。

有効フラグ:

このユーザーを無効とする場合チェックをはずします。

ユーザー名:

ログイン中 Flex 画面の右上にこのユーザー名を表示します。

メールアドレス:

(現在 Flex では使用していません)

説明:

ユーザー一覧の説明欄に表示する説明文言です。

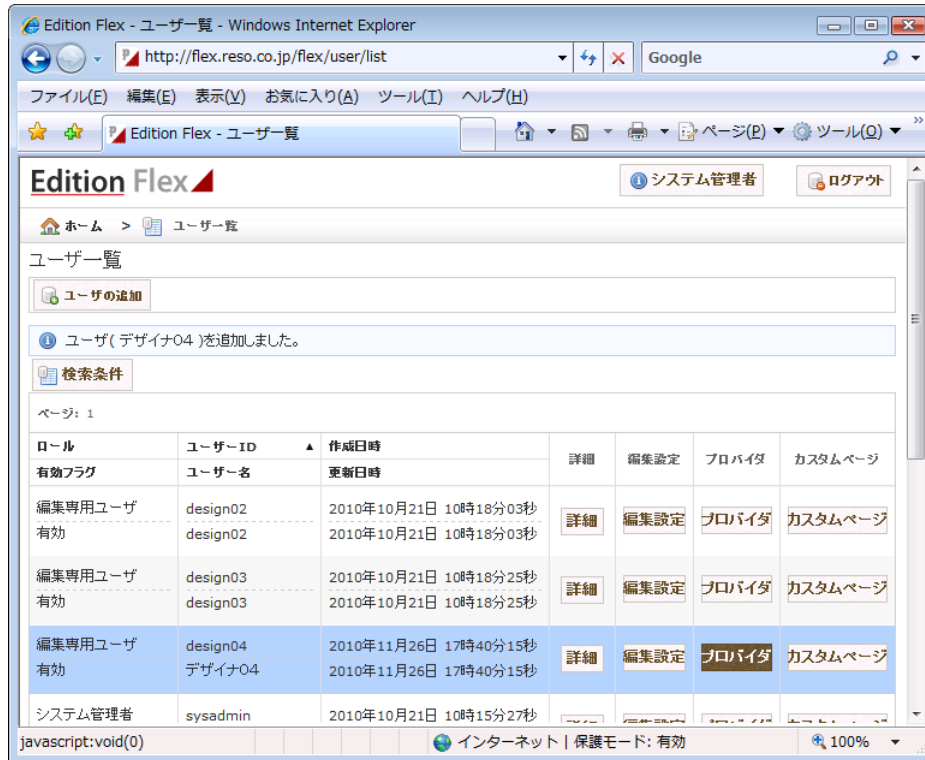
共通鍵:

BackStage 連携時に 認証で使用する暗号キーです。BackStage側の
設定と同じ文字列を指定します。

認証情報有効期間:

Flex に対する共通鍵による認証処理が完了するまでの必要時間です。
デフォルトは1800秒(30分)ですが、短くするほど安全です。

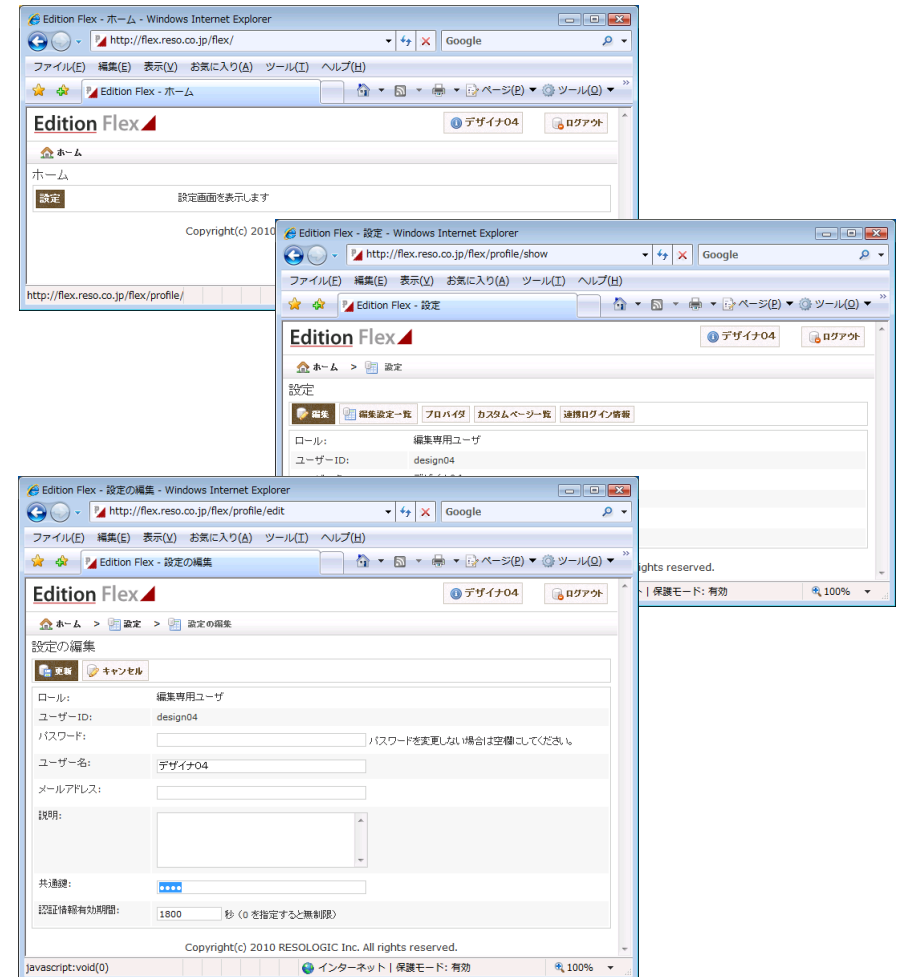
⑤入力した情報に従って、新しいユーザが追加されます。



⑥「ログアウト」をクリックして、一旦システム管理者をログアウトします。

(参考):

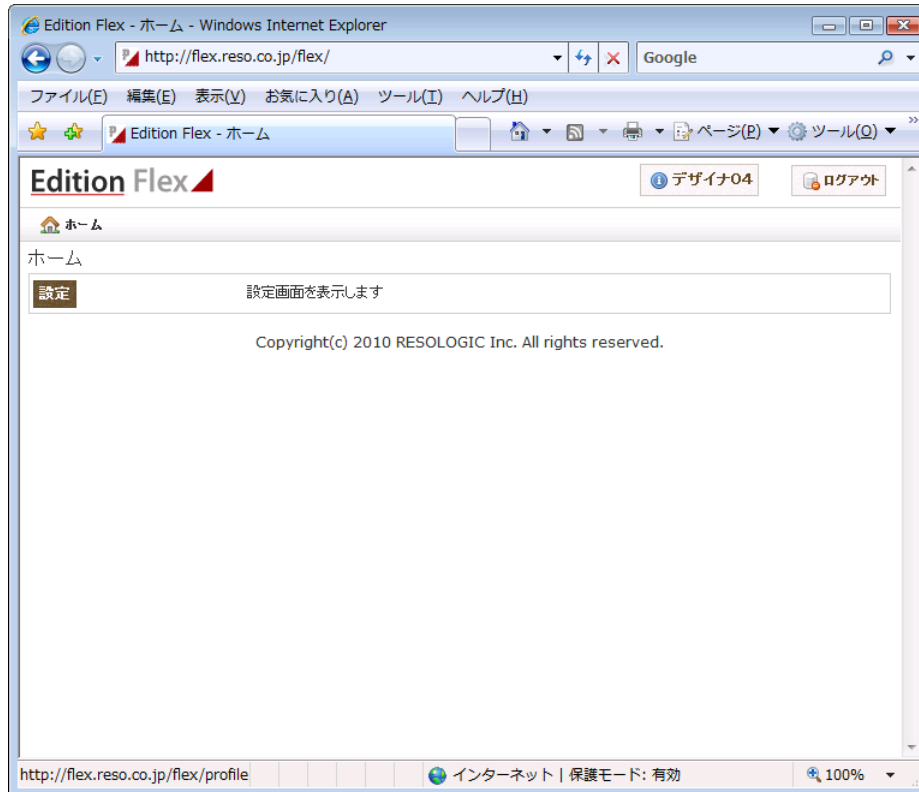
既に登録済みのユーザーでログインして アカウント情報を変更する場合は、ホーム→[設定]→[編集]で変更します。



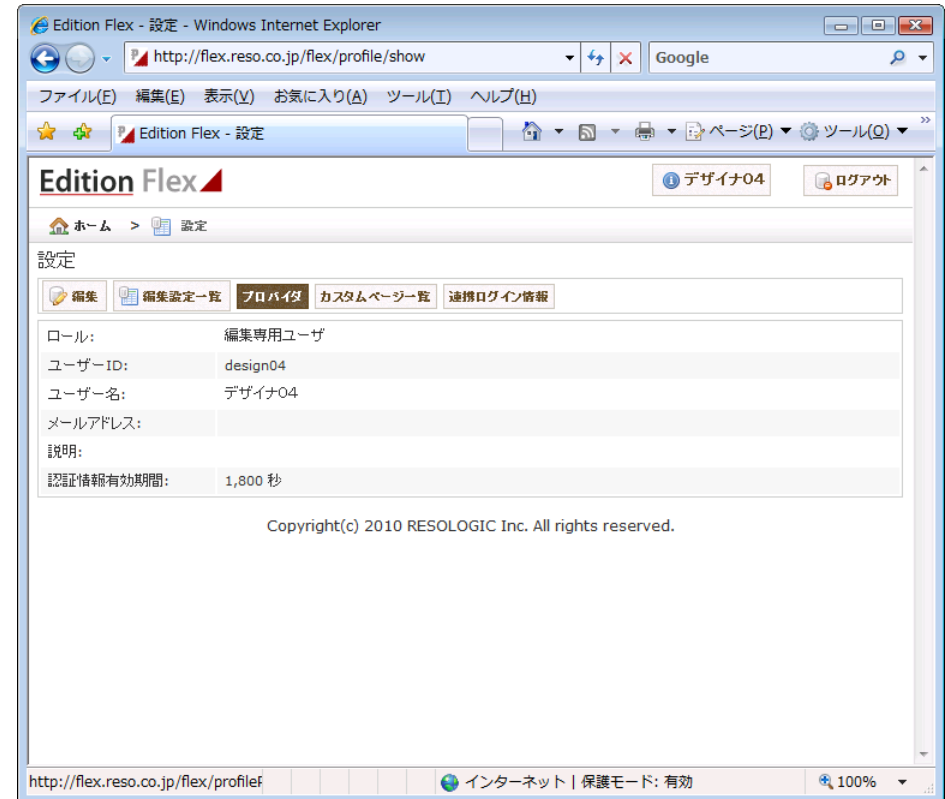
2) Flex に、プロバイダを設定する

追加した Flex のユーザにプロバイダを設定します。

① BackStage と連携するユーザーでログインして[設定]を実行します。



② [プロバイダ] ボタンを実行します。



- ③「プロバイダ」ダイアログが表示されます。
「デフォルトプロバイダ」の「テンプレートプロバイダ」の[編集]を押します。

テンプレートプロバイダ:

テンプレートを編集する際のプロバイダを設定します。

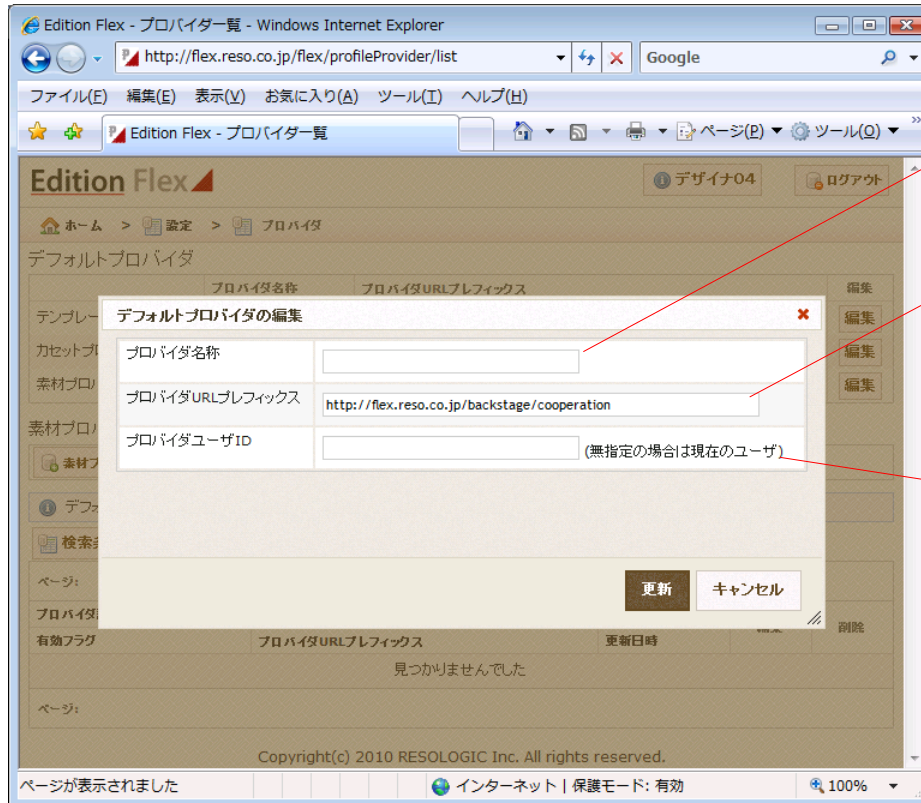
カセットプロバイダ:

カセットを管理するプロバイダを設定します。

素材プロバイダ:

素材を管理するデフォルトのプロバイダを設定します。
※素材プロバイダはデフォルト以外に複数設定できます。

④「デフォルトプロバイダの編集」ダイアログが表示されますので、各項目を入力して[更新]します。



プロバイダ名称:

このプロバイダの名称を設定します。(省略可能)
※プロバイダー一覧で表示される名称です。

プロバイダURLプレフィックス:

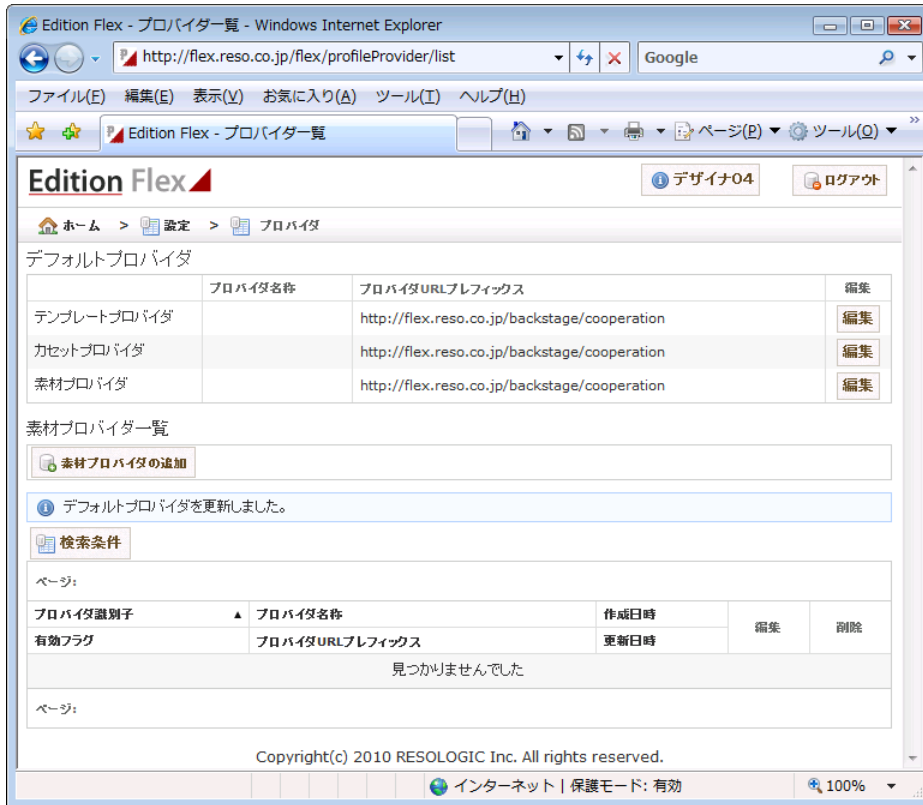
プロバイダAPIのURLを指定します。
BackStage をプロバイダに指定する場合は、下記となります。
“http://xxxx.xxxx.xx.xx/backstage/cooperation”
※xxxx.xxxx.xx.xx の部分はBackStage のドメイン名です。

プロバイダユーザID:

プロバイダのユーザIDを指定します。(省略可能)
※省略した場合にはBackStage から Flex へログインした際のユーザIDが使われます。
※複数のユーザーでプロバイダを共用する場合はここに共通のユーザを指定します。

※「テンプレートプロバイダ」、「カセットプロバイダ」、「素材プロバイダ」はいずれも同じ設定項目となっています。

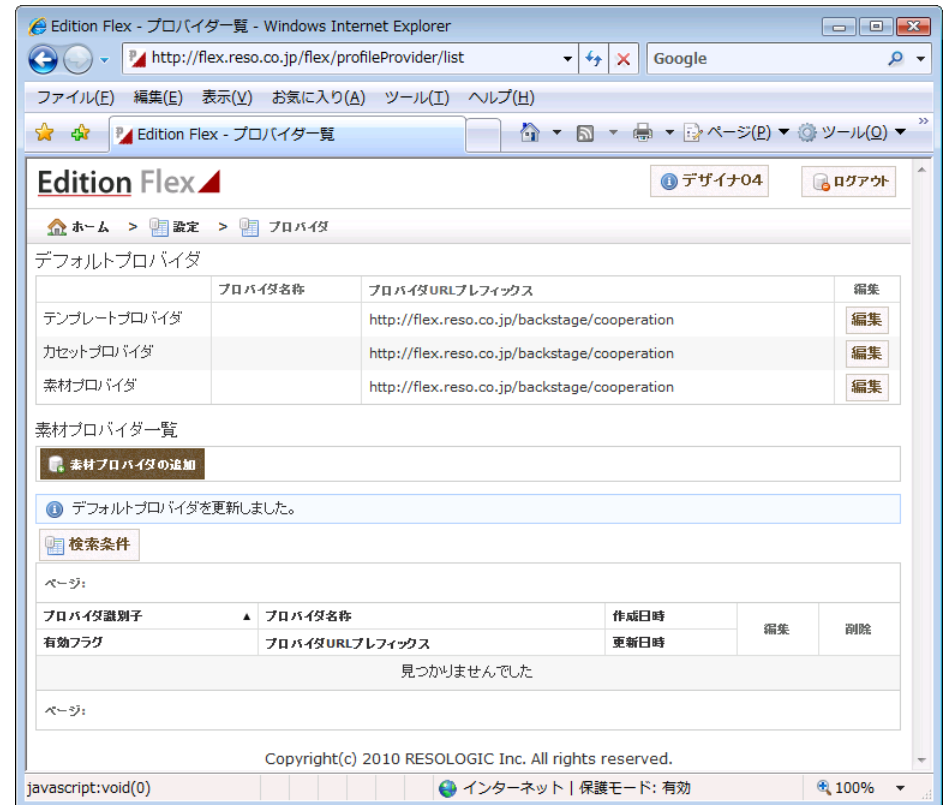
⑤「カセットプロバイダ」、「素材プロバイダ」のデフォルトのプロバイダも、同様に設定します。



The screenshot shows the 'Edition Flex - プロバイダー一覧' page in Internet Explorer. The browser address bar shows 'http://flex.reso.co.jp/flex/profileProvider/list'. The page has a navigation bar with 'ホーム', '設定', and 'プロバイダ'. Below the navigation bar, there's a section titled 'デフォルトプロバイダ' with a table listing providers. The table has columns for 'プロバイダ名称', 'プロバイダURLプレフィックス', and '編集'. The providers listed are 'テンプレートプロバイダ', 'カセットプロバイダ', and '素材プロバイダ', all with the URL 'http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation'. Below this table is a section titled '素材プロバイダー一覧' with a button '素材プロバイダの追加'. A message box says 'デフォルトプロバイダを更新しました。'. There is a search bar with '検索条件' and a table with columns for 'プロバイダ識別子', 'プロバイダ名称', '作成日時', '有効フラグ', 'プロバイダURLプレフィックス', '更新日時', '編集', and '削除'. The table is empty, and a message says '見つかりませんでした'. At the bottom, there's a copyright notice 'Copyright(c) 2010 RESOLOGIC Inc. All rights reserved.' and a status bar showing 'インターネット | 保護モード: 有効' and '100%' zoom.

プロバイダ名称	プロバイダURLプレフィックス	編集
テンプレートプロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集
カセットプロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集
素材プロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集

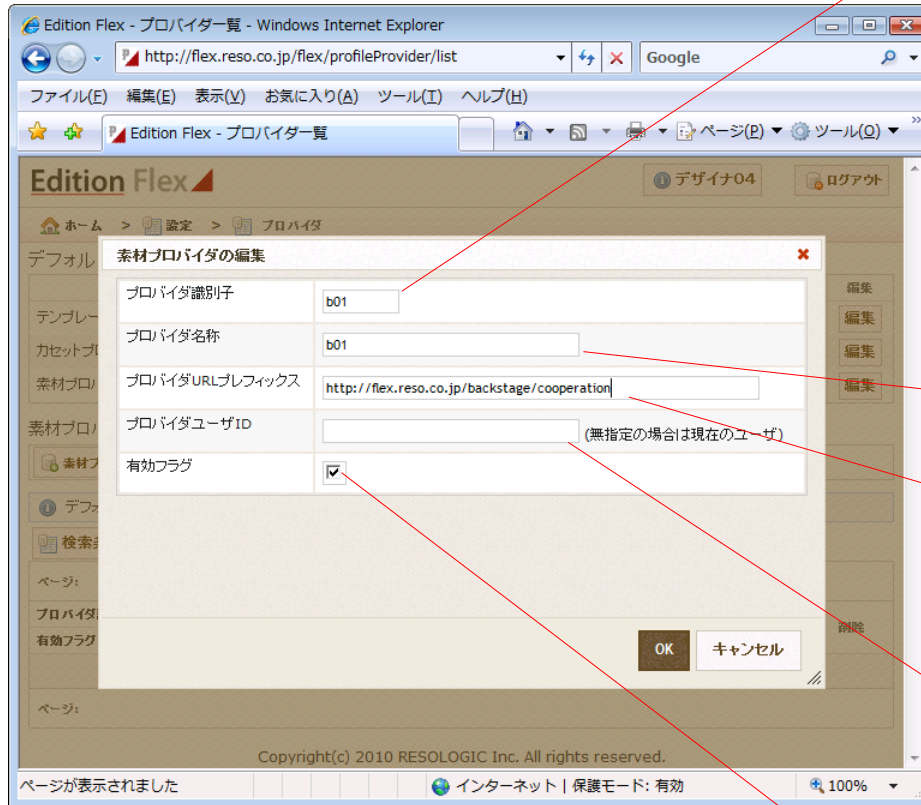
⑥素材プロバイダは、デフォルト以外にも複数追加することができます。必要な場合「素材プロバイダー一覧」の[素材プロバイダの追加]を実行します。



The screenshot shows the 'Edition Flex - プロバイダー一覧' page in Internet Explorer. The browser address bar shows 'http://flex.reso.co.jp/flex/profileProvider/list'. The page has a navigation bar with 'ホーム', '設定', and 'プロバイダ'. Below the navigation bar, there's a section titled 'デフォルトプロバイダ' with a table listing providers. The table has columns for 'プロバイダ名称', 'プロバイダURLプレフィックス', and '編集'. The providers listed are 'テンプレートプロバイダ', 'カセットプロバイダ', and '素材プロバイダ', all with the URL 'http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation'. Below this table is a section titled '素材プロバイダー一覧' with a button '素材プロバイダの追加'. A message box says 'デフォルトプロバイダを更新しました。'. There is a search bar with '検索条件' and a table with columns for 'プロバイダ識別子', 'プロバイダ名称', '作成日時', '有効フラグ', 'プロバイダURLプレフィックス', '更新日時', '編集', and '削除'. The table is empty, and a message says '見つかりませんでした'. At the bottom, there's a copyright notice 'Copyright(c) 2010 RESOLOGIC Inc. All rights reserved.' and a status bar showing 'インターネット | 保護モード: 有効' and '100%' zoom.

プロバイダ名称	プロバイダURLプレフィックス	編集
テンプレートプロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集
カセットプロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集
素材プロバイダ	http://flex.reso.co.jp/backstage/cooperation	編集

⑦「素材プロバイダの編集」ダイアログが表示されます。
各項目を入力して、[OK]します。



プロバイダ識別子:

Flexの素材メニューに対応したプロバイダ識別子を設定します。
※Flex のシステム管理者の画面にて
「編集設定一覧」から取得できる
「editor.lam1」内にて 下記例 の様に

```
例) menuItem  
    title ライブラリ2  
    cmd AddImageParts  
    param  
        providerId b01  
        title ライブラリ2
```

b01 に定義している3ケタの英数字です。



プロバイダ名称:

プロバイダー一覧に表示する名称。

プロバイダURLプレフィックス:

プロバイダAPI のURLを指定します。
BackStage をプロバイダに指定する場合は、下記となります。
“http://xxxx.xxx.xx.xx/backstage/cooperation”
※xxxx.xxx.xx.xx の部分はBackStageのドメイン名です。

プロバイダユーザID:

プロバイダのユーザIDを指定します。(省略可能)
※省略した場合にはBackStage から Flex へログインした際の
ユーザIDが使われます。
※複数のユーザーでプロバイダを共用する場合はここに共通の
ユーザを指定します。

有効フラグ:

このプロバイダを無効とする場合チェックをはずします。

以上で 素材プロバイダが追加できます。

連携に必要な設定は以上です。